

授業科目	発達アセスメント演習						実務家教員担当科目	○			
単位	1	履修	選択	開講年次	3		開講時期	前期			
担当教員	水貝 洵子										
授業概要	実務家教員として、医療や福祉領域において、乳幼児や児童生徒、成人を対象に知能検査や発達検査を実施してきた経験を有する。 本演習では主に幼児期、児童期における発達アセスメントについて解説する。臨床現場で用いられることの多い発達検査(新版 K 式発達検査)及び知能検査(ウェクスラー式知能検査、田中ビネー式知能検査)について講義や実習を行う。 またアセスメントで得られた結果に基づいた発達相談の実際について解説する。										
授業形態	対面授業				授業方法	ディスカッション グループワーク プレゼンテーション					
学生が達成すべき行動目標											
標準的レベル	1. 発達検査や知能検査の基礎となる発達の原理原則や運動、社会性、認知など発達に関する諸理論について説明することが出来る。 2. 授業で扱った発達検査について、検査ごとの特徴を理解し、どのような対象者や場面、支援ニーズがある際に用いられるかについて説明することができる。 3. 授業で扱った知能検査について、検査ごとの特徴を理解し、どのような対象者や場面、支援ニーズがある際に用いられるかについて説明することができる。 4. 発達検査や知能検査の活用方法について説明することができる。										
理想的レベル	標準的レベルに加え、発達検査、知能検査に関する理論の学習や演習の体験を踏まえ、その人の発達状況に応じた個別的な発達支援の在り方について考えることが出来る。										
評価方法・評価割合											
評価方法			評価割合(数値)				備考				
試験			50								
小テスト											
レポート			15								
発表(口頭、プレゼンテーション)			15								
レポート外の提出物											
その他			20				演習(検査の実施やディスカッション)への参加態度を指す				
カリキュラムマップ(該当 DP)・ナンバリング											
DP1	-	DP2	○	DP3	○	DP4	-	DP5	○	ナンバリング	WE31404J
学習課題(予習・復習)										1回の目安時間(時間)	
該当箇所の復習										1	
授業計画											
第1回	テーマ:オリエンテーション										

	本演習のオリエンテーションを行う。発達アセスメントの定義を、その目的、方法、内容、到達目標の視点から解説する。
第2回	テーマ：発達の原理原則 発達検査を学習するうえで基礎となる人の発達の原理原則に関する理論を紹介する。また、発達検査が用いられる領域や場面、対象者などについても解説する。
第3回	テーマ：発達検査1 発達検査のうち遠城寺式乳幼児分析的発達検査を取り上げ、検査の特徴、実施方法、使用場面等について解説する。その後、ペアや小グループに分かれ、検査実施の演習を行う。演習を通じ、乳幼児の発達を捉えるための細やかな視点や多角的な視点について理解を深める。
第4回	テーマ：発達検査2 発達検査のうち新版K式発達検査を取り上げ、検査の特徴、実施方法、使用場面等について解説する。その後、各受講生に複数の検査課題を割り当て、検査課題の実施方法の確認、練習を行う。
第5回	テーマ：発達検査3 受講生は、事前に割り当てられた新版K式発達検査の検査課題の実技を披露する。実技や他者の実技を観ることで、乳幼児の発達を捉えるための細やかな視点や多角的な視点について理解を深める。
第6回	テーマ：発達検査によるアセスメントに基づく支援 新版K式発達検査によってアセスメントした事例を提示し、検査結果からどのような支援が有効であるかディスカッションを行う。
第7回	テーマ：知能検査1 田中ビネー知能検査を取り上げる。検査の成り立ちや実施方法について解説する。
第8回	テーマ：知能検査2 ウェクスラー式知能検査について、検査の特徴や実施方法について解説する。その後、小グループに分かれ、検査課題の分担を行う。受講生は担当した検査課題の実施方法の確認、練習をする。
第9回	テーマ：知能検査3 グループごとに、受講生はウェクスラー式知能検査実施の実技を行う。実施者以外の学生は、検査実施の様子を観察課題する。実技やその観察通し、検査課題の意図や実施時の留意点について考える。
第10回	テーマ：知能検査4 引き続き、グループごとに、受講生はウェクスラー式知能検査実施の実技を行う。実施者以外の学生は、検査実施の様子を観察課題する。実技やその観察通し、検査課題の意図や実施時の留意点について考える。
第11回	テーマ：知能検査によるアセスメントに基づく支援1 ウェクスラー式知能検査を実施した事例を提示する。検査実施に至る経緯や検査結果報告書の実際、検査結果の活用方法について解説する。
第12回	テーマ：知能検査によるアセスメントに基づく支援2 ウェクスラー式知能検査によるアセスメントから支援へと展開した事例について紹介する。事例に関する感想、考察についてディスカッションも行う。
第13回	テーマ：知能検査によるアセスメントに基づく支援3 ウェクスラー式知能検査によってアセスメントした事例を提示し、検査結果からどのような支援が有効であるかディスカッションを行う。

第 14 回	テーマ：知能検査によるアセスメントに基づく支援4 ウェクスラー式知能検査によってアセスメントした事例を提示し、検査結果からどのような支援が有効であるかディスカッションを行う。
第 15 回	テーマ：まとめ これまでの学習内容を振り返りを行う。まとめとして、発達アセスメントに関する注意点についても解説する。
テキスト	授業中にプリント等を配布する。
参考図書・教材／データベース・雑誌等の紹介	『公認心理士の基礎と実践 14ー心理的アセスメント』 野島一彦・繁杵算男（監修） 遠見書房 『子どもの理解と支援のために 発達アセスメント』 本郷一夫（編） 有斐閣選書 『新版 K 式発達検査 2001 実施手引書』 生澤雅夫・松下裕・中瀬惇編著 京都国際社会福祉センター 『田中ビネー知能検査 V』 杉原一昭・杉原隆監修 田研出版 『日本版 WISC-IV 知能検査法』 David Wechsler 著 日本版 WISC-IV 刊行委員会訳編著 日本文化科学社
課題に対するフィードバックの方法	レポートのコメントや質問は適宜取り上げて、授業内で補足や返答をする。
学生へのメッセージ・コメント	発達心理学 I、臨床心理学概論、カウンセリング論、障害者心理学を受講していることが望ましい。 受講生には、発達検査や知能検査の実施を体験してもらう。検査方法を確認、練習し、授業内で実技の発表が求められる。 また、事例検討などを通じ支援の在り方について積極的に考え、意見を表明する姿勢が求められる。